

# 尾崎秀実著作目録

松田 義男 編  
改訂 2019年5月16日  
2003年5月14日

## はじめに

尾崎秀実の著作目録としては、①尾崎秀樹・今井清一編「[尾崎秀実]執筆目録」(『尾崎秀実著作集』第5巻(勁草書房、1979年)、②今井清一編「尾崎秀実著作目録補遺」(『尾崎秀実の中国研究』アジア経済研究所、1983年)、③今井清一編「尾崎秀実著作目録」(『ゾルゲ事件研究』6、2000年5月)がある。

①は、『尾崎秀実著作集』全5巻(勁草書房、1977-1979年、以下『著作集』と略記)刊行時に作成されたものである。②はその補遺である。③は、①・②と、その後に確認された尾崎の著作を追録したものである。著作目録の形態としては、①②は著作の形態にかかわらず年次順に配列し、③は、『著作集』などの収録書順等に配列している。

『著作集』以後の収録書としては、今井清一編『開戦前夜の近衛内閣 満鉄』(東京時事資料月報)の尾崎秀実政治情勢報告』(青木書店、1994年。以下、『開戦前夜の近衛内閣』と略記)と、今井清一編「尾崎秀実の『著作集』等未収録著作」(『ゾルゲ事件研究』2、4、6(1997年11月、1998年11月、2000年5月)、米谷匡史編『尾崎秀実時評集—日中戦争期の東アジア』[東洋文庫](平凡社、2004年。以下、『時評集』と略記)がある。

本著作目録では、「1. 著書」、「2. 共著」、「3. 評論等(新聞・雑誌掲載)」に大別したうえで、それぞれ年次順に配列し、参考として「4. 評論集初出」を付した。また、『著作集』、『開戦前夜の近衛内閣』、『ゾルゲ事件研究』、『時評集』に収録されている著作については、[ ]に注記した。

今井清一編「尾崎秀実著作目録」に採録されていない著作(初出未詳とされているもの、掲載紙誌刊行月日に誤記があり文献探索上支障のあるものを含む)については、MSP ゴシック・太字体で示した。現時点では、「1. 著書」1篇、「2. 共著」1篇、「3. 評論(新聞・雑誌掲載)」143篇である。

## 凡例

- \* 編者未見の著作については\*を付した。
- \* 新聞・雑誌の連載は、初回掲載に一括した。
- \* 雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。
- \* 新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[ ]で示したほか、無題の場合は[ ]に示して仮題とした。
- \* 掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1-1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。
- \* 新聞の朝刊・夕刊については、夕刊についてのみ、[夕刊]と注記した。
- \* 無署名およびペンネーム「欧佐起」、「白川次郎」、「白川」、「実」については【 】に注記した。
- \* その他、編者の注記は適宜[ ]で示した。

本目録作成に際しては、国立国会図書館、早稲田大学中央図書館、西南学院大学図書館、関西大学総合図書館、玉川大学図書館、立教大学図書館、専修大学図書館、神戸大学付属図書館、東京大学総合図書館、同教育学部図書室、日本近代文学館、東洋文庫、大阪府立中央図書館、同中之島図書館より資料閲覧の便宜を得ました。

## 1. 著書

- 『蜂起』[叶沉著]＜国際プロレタリア文学選集 8＞四六書院、1931年10月5日[訳書]【欧佐起】
- 『女一人大地を行く』[スメドレー著]改造社、1934年8月17日[原著: Agnes Smedley, Daughter of earth]  
【白川次郎訳】[復刊: 酣燈社、1951年10月。＜角川文庫＞角川書店、1957年]
- 『嵐に立つ支那 転換期支那の外交・政治・経済』 亜里書店、1937年9月10日[『著作集』第1巻収録]
- 『南京政府の正体』＜新日本同盟会報＞新日本同盟、1937年9月10日**
- 『国際関係から見た支那』＜支那問題叢書 第1＞第二国民会出版部、1937年11月22日[『著作集』第1巻収録]
- 『支那事変の歴史的展開 武漢陥落後の東亜新体制』＜国民思想パンフレット 5＞国民思想研究所、1938年11月30日[『ゾルゲ事件研究』4収録]
- 『現代支那批判』中央公論社、1938年11月20日[『著作集』第2巻収録]
- 『現代支那論』＜岩波新書＞岩波書店、1939年5月30日[新装版: 岩波書店、1982年。『著作集』第2巻収録]
- 『最近日支関係史』＜太平洋問題資料 7＞日本国際協会、1940年1月17日[『著作集』第3巻収録]
- 『支那社会経済論』＜東亜叢書第2＞生活社、1940年6月14日[『著作集』第3巻収録]
- 『東亜新秩序建設の理論と方策』昭和研究会事務局編、昭和研究会、1940年6月15日
- 『世界政治と東亜』[訳]生活社、1940年9月30日[原著: Geoffrey Francis Hudson, *Europe & China: a survey of their relations from the earliest times to 1800*, (London: E. Arnold & co.), 1931]
- 『抗戦支那の政治経済情勢』＜教養講座第1輯＞西村書店、1940年11月16日[『著作集』第3巻収録]
- 『東亜民族結合と外国勢力』＜東亜新書＞中央公論社、1941年6月15日
- 『愛情はふる星のごとく』世界評論社、1946年9月5日[『著作集』第4巻収録、新装版: 青木書店、1998年、今井清一編『新編愛情はふる星のごとく』＜岩波現代文庫社会 76＞岩波書店 2003年]
- 『尾崎秀実著作集』全5巻、勁草書房、1977年1月、3月、7月、11月、**1978年**8月、**1979年**7月

## 2. 共著

- 緒言 中国左翼文芸戦線の現状を語る『支那小説集 阿Q正伝』＜国際プロレタリア文学選集 3＞四六書院、1931年10月5日【白川次郎】[『著作集』第3巻収録]
- 胡也頻小伝『支那小説集 阿Q正伝』＜国際プロレタリア文学選集 3＞四六書院、1931年10月5日【白川】
- 柔石小伝『支那小説集 阿Q正伝』＜国際プロレタリア文学選集 3＞四六書院、1931年10月5日【白川】
- 中国共産軍と中国ソヴェート『日本国際年鑑 昭和十年版』日本国際問題調査会編・河出書房、1935年5月12日
- 綏遠行一傳作義氏訪問記『現地に支那を視る』朝日新聞社、1936年6月10日[初出は「北支を駆けめぐる」  
『東京朝日新聞』1936年1月25、26日。『ゾルゲ事件研究』2収録]

- 山西『現地に支那を視る』朝日新聞社、1936年6月10日[初出は「北支を駆けめぐる」『東京朝日新聞』1936年1月27、28日。『ゾルゲ事件研究』2収録]
- 山東『現地に支那を視る』朝日新聞社、1936年6月10日[初出は「北支を駆けめぐる」『東京朝日新聞』1936年1月29、30日、『著作集』第5巻収録]
- 宋哲元氏会見記『現地に支那を視る』朝日新聞社、1936年6月10日【無署名】[初出は「宋哲元氏会見記」『東京朝日新聞』1936年1月3日。『著作集』第5巻収録。ほぼ同文のものとして、尾崎秀実「宋哲元氏と語る」(『東方公論』11-2、1936年2月1日)がある]
- 殷汝耕氏と会見の記『現地に支那を視る』朝日新聞社、1936年6月10日【無署名】[初出は、『東京朝日新聞』1936年1月5日、『著作集』第5巻収録。ただし、大西斉「殷汝耕氏と語る」『東方公論』11-2(1936年2月1日)と同文であるから尾崎執筆ではない]
- 蒋介石政権の最近の動向『日本国際年鑑 昭和十一年版』日本国際問題調査会編・河出書房、1936年6月16日【無署名】[『著作集』第5巻収録]
- 中国共産党『経済学辞典 追補』大阪商科大学経済研究所編、岩波書店、1936年10月20日[『著作集』第5巻収録]
- 支那経済の現勢『移り行く支那』朝日新聞社、1937年2月29日
- 共産党の諸問題『移り行く支那』朝日新聞社、1937年2月29日
- 支那における列強『移り行く支那』朝日新聞社、1937年2月29日[『現代支那批判』、『著作集』第2巻収録]
- \*支那に於ける英国の勢力『支那問題委員会要録(三)』昭和研究会、1937年5月24、31日
- 支那の経済建設批判—太平洋会議の討論を中心に—『太平洋問題—第六回太平洋会議報告—』日本国際協会、1937年6月14日[『現代支那批判』、『著作集』第2巻収録]
- 日本の大陸政策と満州・北支問題『植民地の再分割』[朝日時局読本7]朝日新聞社、1937年8月30日[『現代支那批判』、『著作集』第2巻収録]
- 幣制改革の検討[「東亜時事問題 支那」]『朝日東亜年報 昭和十二年版』朝日新聞社、1937年8月31日[『ゾルゲ事件研究』4収録]
- イギリス対支政策の新段階[「東亜時事問題 支那」]『朝日東亜年報 昭和十二年版』朝日新聞社、1937年8月31日
- 人民戦線運動[「東亜時事問題 支那」]『朝日東亜年報 昭和十二年版』朝日新聞社、1937年8月31日[大西斉のと共同執筆『著作集』第5巻収録]
- 第六回太平洋会議の諸問題[「東亜時事問題 其他の問題」]『朝日東亜年報 昭和十二年版』朝日新聞社、1937年8月31日[『ゾルゲ事件研究』2収録]
- 日支事変と国際資本『支那経済年報 昭和十三年版』改造社、1937年12月20日[『現代支那批判』、『著作集』第2巻収録]
- 最近の香港と広東『事変をめぐる時局読本』朝日新聞社、1938年5月31日[初出は、『週刊朝日』33-20、1938年4月24日。『著作集』第5巻収録]
- 事変と支那経済『朝日東亜年報 昭和十三年版』朝日新聞社、1938年10月5日【無署名】[「日支事変と支那経済」と改題、『現代支那批判』、『著作集』第2巻収録]
- 東亜に於ける新平和体制への道—東亜に於ける新秩序—『アジア問題講座 第2巻 —政治・軍事篇—』創元社、1939年1月15日

汪精衛はどこへ行く[「東洋の人」]『アジア』1<アジア問題講座 第2巻付録>創元社、1939年1月15日  
[『著作集』第5巻収録]

蔣政権の衰頹と新政権の前途『支那経済年報 昭和14年版(長期建設号)』山口高等商業学校東亜経済研究所編、改造社、1939年2月21日[『著作集』第2巻収録]

アジア問題文献解題[(4)(5)を執筆]『アジア問題講座 第4巻 経済・産業篇(一)』創元社、1939年2月25日[『著作集』第5巻収録]

国民革命以後の列強と支那『アジア問題講座 第1巻 政治・軍事篇(一)』創元社、1939年3月28日

アジア問題文献解題[(11)~(13)を執筆]『アジア問題講座 第1巻 政治・軍事篇(一)』創元社、1939年3月28日[『著作集』第5巻収録]

国民党の文化政策『アジア問題講座 第11巻 思想・文化篇(二)』創元社、1939年4月28日[『著作集』第5巻収録]

国民政府の成立と統一政策『東洋文化史体系 第七巻 東亜の現勢』誠文堂新光社、1939年5月25日

太平洋の新秩序『革新日本の指標』東亜解放社編・日本青年外交協会刊、1939年7月30日[『著作集』第2巻収録]

アジアに寄する言葉『アジア問題講座 第10巻 思想・文化篇(一)』創元社、1939年10月22日[『著作集』第5巻収録]

変化するもの—上海・漢口・上海—『アジア』<アジア問題講座第10回配本付録>創元社、1939年10月23日[『著作集』第5巻収録]

新政治体制の問題『新体制の構想—農村問題を中心として—』産業組合学校同志会編・刊、1939年12月16日[『ゾルゲ事件研究』2収録]

支那資本主義発達略史『アジア問題講座 第5巻 経済・産業篇(二)』創元社、1940年2月12日

国民党の経済建設『アジア問題講座 第5巻 経済・産業篇(二)』創元社、1940年2月12日

アジア人名辞典[監修]『アジア問題講座 第12巻』創元社、1940年4月12日

アジア講座の完成と虎さんの思い出[「完結に際して」]『アジア』<アジア問題講座第12回配本付録>、創元社、1940年4月20日[『著作集』第5巻収録]

序『支那の知性』[林語堂著・喜入虎太郎訳]創元社、1940年6月17日[『著作集』第5巻収録]

**支那の新体制と日支外交[「現代のアジヤ」]『世界文化史大系 第24巻』白鳥庫吉ほか監修、誠文堂新光社、1940年8月30日**

序『世界政治と東亜』生活社、1940年9月30日[『ゾルゲ事件研究』6収録]

事変四年度概観[「支那事変」]『北海タイムス年鑑 昭和十七年度版』北海タイムス社、1941年12月10日

支那事変[「橘樸」署名による]『支那問題辞典』中央公論社、1942年3月20日

### 3. 評論等(新聞・雑誌掲載)<433 篇>

#### 1922(大正 11)年

新高登山『台湾日日新報』9月5～9日【鈴木節と連名】

#### 1926(大正 15)年

末弘博士の新著『労働法研究』[『読書ペーヂ』]『東京朝日新聞』10月29日[『新聞集成大正編年史 大正十五年 年度版 下』(明治大正昭和新聞研究会、1983年)収録]

#### 1930(昭和 5)年

在支邦人紡の前途[『上海支局特信』]『大阪朝日新聞』3月23、25日

英国何以落後了?『大衆文芸』2-4、5月1日【欧佐起】

日本左翼文壇之一瞥『大衆文芸』2-4、5月1日【白川次郎】[訳文「日本左翼文壇の一瞥」、『著作集』第5巻収録]

支那の輸出税問題[『上海支局特信』]『大阪朝日新聞』5月17日【尾崎生】

#### 1931(昭和 6)年

飛行機から見た支那水害の実況『週刊朝日』20-14、9月27日

#### 1932(昭和 7)年

身近くに轟く 物凄い迫撃砲 我歩哨の鋭い誰何『大阪朝日新聞[夕刊]』1月30日【尾崎特派員発】

支那共産軍の問題『社会及国家』196、7月1日【白川次郎】[『著作集』第1巻収録]

#### 1933(昭和 8)年

ヒトラーはどこへ行く『国際評論』2-3、3月1日[『著作集』第1巻収録]

中欧に蟠まる国際関係『国際評論』2-10、10月1日[『著作集』第1巻収録]

独逸の脱退と欧政局 一九一四年と一九三三年『帝国大学新聞』499、10月30日

“Chinese Destinies”—アグネス・スモドレー女史の新著—『社会及国家』213、12月1日【白川次郎】[『著作集』第3巻収録]

#### 1934(昭和 9)年

支那の運命 [スモドレー著]『社会及国家』217～225、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日【訳：白川次郎】[『著作集』第3巻収録・抄録]

在満機構改正の繚れ[『時の話題』]『社会及国家』223、10月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

共産軍の西方移動と今後の支那政局『国際評論』3-11、11月1日【白川次郎】[『著作集』第1巻収録]  
ソヴェート支那最近の経済施設『自由通商』7-11、11月1日【白川次郎】[『著作集』第1巻収録]  
蒋介石の「剿共」紅軍勢力の消長展望『帝国大学新聞』551、11月26日[『著作集』第5巻収録]  
西南問題の重要性[「時の話題」]『社会及国家』225、12月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

## 1935(昭和10)年

イギリス産業調査団報告[「時の話題」]『社会及国家』226、1月1日【実】[『著作集』第3巻収録]  
支那と銀問題『国際評論』4-2、2月1日[『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻収録]  
「戦争断じてなし」[「時の話題」]『社会及国家』227、2月1日【実】[『著作集』第3巻収録]  
鄧熙華<sup>タンシファ</sup>[「時の書架」]『社会及国家』227、2月1日【白川】[『著作集』第5巻収録]  
日支親善といふこと[「時の話題」]『社会及国家』228、3月1日【実】[『著作集』第3巻収録]  
[「中国文学月報」への希望と感想]『中国文学月報』1、3月5日

### 日本を中心として見た東亜の諸問題[「若き世代の見たる現代諸相」]『行動』3-4、4月1日【白川次郎】

新版大亜細亜主義[「時の話題」]『社会及国家』229、4月1日【実】[『著作集』第3巻収録]  
難航の日支提携[「時の話題」]『社会及国家』229、4月1日【実】[『著作集』第3巻収録]  
支那社会経済史[「時の書架」]『社会及国家』229、4月1日【白川】[『著作集』第5巻収録]  
支那市場を繞る日英米の角逐『自由通商』8-4、4月1日【白川次郎】[『著作集』第1巻収録]  
内債の嵩む支那と国際援助の重要性『ダイヤモンド』23-12、4月21日[『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻収録]  
支那経済の立直しと借款問題『国際評論』4-5、5月1日[『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻収録]  
天災と抵抗力[「時の話題」]『社会及国家』230、5月1日【実】[『著作集』第3巻収録]  
端倪し得ぬ日本外交[「時の話題」]『社会及国家』231、6月1日【実】[『著作集』第3巻収録]  
『九・一八前後』の北平[「時の書架」]『社会及国家』231、6月1日【白川】[『著作集』第5巻収録]  
親日政治家の逃避[「時の話題」]『社会及国家』232、7月1日【実】[『著作集』第3巻収録]  
朝鮮開国交渉始末[「時の書架」]『社会及国家』232、7月1日【白川】[『著作集』第5巻収録]  
外蒙共和国の発展と戦略的重要性『東亜』8-7、7月1日[『著作集』第1巻収録]

### 辺疆問題に現はれたイギリスの動向『辺疆支那』2-7、7月1日

エチオピアと日本[「時の話題」]『社会及国家』233、8月1日【実】[『著作集』第3巻収録]  
“Daughter of Earth”の新版[「時の書架」]『社会及国家』233、8月1日【白川】[『著作集』第5巻収録]  
北支事変の後に来るもの『中央公論』50-8、8月1日[『著作集』第1巻収録]

### 汪蒋政権の再確認と我が北支経済開発の今後『国際経済週報』16-35、8月29日

大陸、晴曇常無し[「時の話題」]『社会及国家』234、9月1日【実】[『著作集』第3巻収録]  
対支政策の推進力とその限界『中央公論』50-9、9月1日[『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻収録]

転機に立つ支那[「週聞世界情報」]『帝国大学新聞』589、9月9日[『著作集』第5巻収録]

恐慌支那と英[「週聞世界情報」]『帝国大学新聞』590、9月16日[『著作集』第5巻収録]

Japan's friends in China『Contemporary Japan』4-2、9月

日英対支政策に調和点ありや『国際評論』4-10、10月1日[『著作集』第1巻収録]

水防国策[「時の話題」]『社会及国家』235、10月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

北支経済開発問題『三田新聞』340、10月18日

**拡大する北支の自治運動と農村の疲弊状態『国際経済週報』16-44、10月31日**

\*英国侵略中国辺疆的趨勢『太平洋』9月、10月[訳文「イギリスの中国辺境侵略の顛末」]『著作集』第5巻収録]

イギリス対支政策の鋭鋒[「時の話題」]『社会及国家』236、11月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

汪兆銘撃たる[「時の話題」]『社会及国家』236、11月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

対支政策と輿論の貧窮[「時の話題」]『社会及国家』237、12月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

**支那辺疆と英露の角逐[「入江啓四郎『支那の辺疆と英露の角逐』書評「読書欄」]『東京朝日新聞』12月11日**

## 1936(昭和11)年

支那における列強の角逐『国際評論』5-1、1月1日[『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻収録]

**北支問題の重要性[「自由通商」]9-1、1月1日[『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻収録]**

冀察政務委員会を觀る[「北支時局の再検討」]『東京朝日新聞』1月3日[大西斉との共同署名]

宋哲元氏会見記[「北支時局の再検討」]『東京朝日新聞』1月3日[大西斉との共同署名。『現地に支那を視る』、『著作集』第5巻収録。ほぼ同文のものとして、尾崎秀実「宋哲元氏と語る」(『東方公論』11-2、1936年2月1日)がある]

北支の立役者殷汝耕氏と会見の記[「北支時局の再検討」]『東京朝日新聞』1月5日【大西斉との共同署名】[『現地に支那を視る』、『著作集』第5巻収録。大西斉「殷汝耕氏と語る」(『東方公論』11-2、1936年2月1日)と同文である]

**冀察政務委員会の成立観[「北支新情勢を打診する」]『大阪朝日新聞』1月5日【大西斉との共同署名】**

**冀東に立て籠る殷汝耕氏[「北支新情勢を打診する」]『大阪朝日新聞』1月5日【大西斉との共同署名】**

**覇権を握った宋哲元氏[「北支新情勢を打診する」]『大阪朝日新聞』1月5日【大西斉との共同署名】**

北支を駆けめぐる 綏遠『東京朝日新聞』1月25、26日[『現地に支那を視る』(朝日新聞社、1936年)収録]

北支を駆けめぐる 山西『東京朝日新聞』1月27、28日[『現地に支那を視る』(朝日新聞社、1936年)収録]

北支を駆けめぐる 山東『東京朝日新聞』1月29、30日[『現地に支那を視る』(朝日新聞社、1936年)、『著作集』第5巻収録]

**北支を駆けめぐる 綏遠『大阪朝日新聞』1月29日**

**北支を駆けめぐる 山西『大阪朝日新聞』1月30日**

**北支を駆けめぐる 山東『大阪朝日新聞』2月1日**

幣制改革の効果[「週聞世界情報」]『帝国大学新聞』609、1月27日[『著作集』第5巻収録]

**宋哲元氏と語る[「北支の立役者と語る」]『東方公論』11-2、2月1日**

南京政権の危機 経済的内戦の激化『帝国大学新聞』610、2月3日[『著作集』第5巻収録]

日支外交の一元化[「時の話題」]『社会及国家』240、3月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

支那の経済的国内戦 解体の内的原動力として『ダイヤモンド』24-7、3月1日

共産軍の進出 北支政治均衡の破壊『帝国大学新聞』618、3月23日[『著作集』第5巻収録]

支那をめぐる日蘇関係『国際評論』5-4、4月1日[『著作集』第1巻収録]

日支関係の緊迫[「時の話題」]『社会及国家』241、4月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

襟もたにつく[「時の話題」]『社会及国家』241、4月1日【実】[『著作集』第5巻収録]

支那の国際貿易に関する一考察『自由通商』9-4、4月1日[『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻収録]

**北支進出を企つ支那共産軍の全貌[「アサヒグラフ」]26-18、4月29日**[「北支進出を企てる支那共産軍」と改題、  
『国際関係から見た支那』、『著作集』第1巻、『アサヒグラフに見る昭和の世相(3)』(朝日新聞社、1975年)収録]

黒人帝国亡ぶ[「時の話題」]『社会及国家』242、5月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

支那の学生『学生評論』1-2、6月1日【白川次郎】[『著作集』第3巻収録]

新英転更の効果[「時の話題」]『社会及国家』243、6月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

支那研究と方法論 田中忠夫氏の多年の業績『帝国大学新聞』629、6月8日[『著作集』第5巻収録]

西南問題の現代支那政局に於ける意義『国際評論』5-7、7月1日[『著作集』第1巻収録]

西南派と日本[「時の話題」]『社会及国家』244、7月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

支那に於ける日英経済戦『自由通商』9-7、7月1日[『著作集』第1巻収録]

**列国の対支政策[「産業と教育」]3-8、8月1日**[『国際関係から見た支那』、『著作集』第1巻収録]

橋樑氏著『支那社会研究』[「読書頁」]『東京朝日新聞』8月3日

支那統一と日本[「時の話題」]『社会及国家』247、10月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

太平洋会議[「時の話題」]『社会及国家』247、10月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

**支那の人民戦線と蔣政権[「大亜細亜主義」]42、10月1日**[9月26日座談会(於日比谷陶々亭):中山優、田中忠雄、下中弥三郎、中谷武世]

**収益主義か公益主義か—通信事業特別会計納付金問題に関連して—[「交通経済」]7-10、10月10日**[白川次郎]

アメリカ西海岸を歩く『帝国大学新聞』644、645、10月26日、11月2日[『著作集』第5巻収録]

綏遠問題の帰趨『帝国大学新聞』650、11月30日[『著作集』第5巻収録]

太平洋会議と新聞『国際知識』16-11、11月1日[『著作集』第1巻収録]

防共問題の核心[「時の話題」]『社会及国家』248、11月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

太平洋会議の支那問題『中央公論』51-11、11月1日[『国際関係から見た支那』、『著作集』第1巻収録]

平緩戦線異常[「時の話題」]『社会及国家』249、12月1日【実】[『著作集』第3巻収録]



支那に於ける国際関係の新局面『新評論』1-1、12月1日[『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻収録]

防共問題の多面性『日本評論』11-12、12月1日[『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻収録]

## 1937(昭和12)年

『防共』と支那における国際関係『国際評論』6-1、1月1日[『著作集』第1巻収録]

西安事件と日本[「時の話題」]『社会及国家』250、1月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

支那経済の動向 幣制改革成功の評価『自由通商』10-1、1月1日[『著作集』第1巻収録]

張学良クーデターの意義—支那社会の内部的矛盾の爆発—[「学良兵変と支那」]『中央公論』52-1、1月1日[『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻、『時評集』収録]

日支関係の新局面[「時の話題」]『社会及国家』251、2月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

芦原将軍の死[「時の話題」]『社会及国家』251、2月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

西安事件以後の新情勢『社会及国家』251、2月1日[『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻、『時評集』収録]

三中全開かる『帝国大学新聞』661、2月22日[『著作集』第5巻収録]

支那とソ連邦—露支関係の一断面—『月刊ロシヤ』3-3、3月1日[『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻収録]

新疆におけるソ連の経済的地盤『国際知識』17-3、3月1日[『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻収録]

イギリス対支政策の新段階『国際評論』6-3、3月1日[『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻収録]

動くか、支那は[「時の話題」]『社会及国家』252、3月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

### Latest moves in China 『Contemporary Japan』5-4、3月

日支経済提携[「時の話題」]『社会及国家』253、4月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

東亜における戦争の危機[「戦争は防止出来ないか」]『自由』1-4、4月1日[『国際関係から見た支那』、『著作集』第1巻収録]

戦争の危機と東亜『中央公論』52-4、4月1日[『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻、『時評集』収録]

日支経済提携批判『改造』19-5、5月1日[『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻、『時評集』収録]

支那の産業開発と国際資本『自由通商』10-5、5月1日[『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻収録]

対支政策の転換 日支経済提携の意義[「時局」]『壮年団』3-5、5月1日[『国際関係から見た支那』、『著作集』第1巻収録]

英の対支政策 日英提携か相剋か『帝国大学新聞』672、5月3日[『国際関係から見た支那』、『著作集』第1巻収録]

### 佐野袈裟美氏著支那歴史読本[「読書頁」]『東京朝日新聞』5月3日

### 日・英・支三角関係の深刻化『関西学院新聞』132、5月20日

新内閣と支那[「時の話題」]『社会及国家』255、6月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

日英会談と支那の動き[「時局」]『壮年団』3-6、6月1日[『国際関係から見た支那』、『著作集』第1巻収録]

列強角逐中におけるアメリカの対支政策『東洋』40-6、6月1日[『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻収録]

\*全体抗日の支那を暴く『グラフィック』6月15日[座談会：岩井英一、波多野乾一、山上正義]

支那合作社運動の現状[陳翰笙著]『改造』19-7、7月1日【白川次郎訳】[『ゾルゲ事件研究』2収録]

近衛内閣と対支外交[「近衛内閣の進路」]『壮年団』3-7、7月1日[『国際関係から見た支那』、『著作集』第1巻収録]

転換期支那の基本問題『中央公論』52-7、7月1日[清沢淵・室伏高信編『支那の知識』（青年書房、1937年8月）、『嵐に立つ支那』、『著作集』第1巻収録]

北支問題の新段階[「北支事変」]『改造』19-8、8月1日[『現代支那批判』、『著作集』第2巻、『時評集』収録]

北支事変の意義『財政』2-9、8月1日[『ゾルゲ事件研究』4収録]

北支問題の重大化『壮年団』3-8、8月1日[『国際関係から見た支那』、『著作集』第1巻収録]

### 日ソ国力概説『米穀日本』3-8、8月1日

中国国民党・共産党関係史『日本評論』12-9 付録<『抗日支那の解剖』>、8月10日[『現代支那批判』、『著作集』第2巻収録]

北支に錯綜する列強の利権『世界知識』10-9、9月1日[『国際関係から見た支那』、『著作集』第1巻収録]

日支戦争の展開[「日支事変特輯」]『壮年団』3-9、9月1日[『国際関係から見た支那』、『著作集』第1巻収録]

南京政府論[「支那問題の基本的分析」]『中央公論』52-9、9月1日[『現代支那批判』、『著作集』第2巻収録]

### 支那研究の新著『書香』99、9月10日

彼等上海—南京枢軸を死守せん それはなぜか『週刊朝日』32-12、9月12日[『国際関係から見た支那』、『著作集』第1巻収録]

遠き慮り[「時の話題」]『社会及国家』259、10月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

支那論の貧困と事変の認識『セルパン』81、10月1日[『国際関係から見た支那』、『著作集』第1巻、『時評集』収録]

日支事変と列強[「胎動する世界戦争」]『壮年団』3-10、10月1日[『国際関係から見た支那』、『著作集』第1巻収録]

支那に於ける英国の勢力『中央公論』52-10、10月1日[『現代支那批判』、『著作集』第2巻収録]

南京政府の解剖と中国共産党『帝国教育』708、10月1日[「南京政府と中国共産党」と改題、国際関係から見た支那』、『著作集』第1巻収録]

支那事変と列国『東洋』40-10、10月1日[『現代支那批判』、『著作集』第2巻、『時評集』収録]

### ソ支不可侵条約締結[「時事」]『米穀日本』3-10、10月1日

時局と対支認識『改造』19-11、10月10日[『現代支那批判』、『著作集』第2巻収録]

支那に於ける貿易と関税政策—支那貿易の植民地性—『自由通商』10-10、10月10日[『現代支那批判』、『著作集』第2巻収録]

澳門—「東洋の真珠」[アグネス・スモドレー著]『中央公論』52-11、10月10日【白川次郎訳】

支那は果して赤化するか『実業之日本』40-20、10月15日[『国際関係から見た支那』、『著作集』第1巻、『時評集』収録]

抵抗力の限度 北支の新政治形態と長期抵抗の再検討[『世界の動向』『帝国大学新聞』690、10月18日[『著作集』第5巻収録]

#### **事変背後に活躍する支那海外使節『グラフィック』2-20、10月30日**

支那の教育運動[『海外教育事情』『教育』5-11、11月1日[『著作集』第3巻収録]

支那はどこまで戦ふか『財政』2-12、11月1日[『ゾルゲ事件研究』4収録]

真理の勇[『時の話題』『社会及国家』260、11月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

#### **座談会 列強は支那事変をどう見る?『青年』22-11、11月1日[座談会：馬場秀夫、横田実、長谷川了]**

日支事変 展開を予定する停滞『壮年団』3-11、11月1日[『著作集』第5巻収録]

周恩来の地位『中央公論』52-12、11月1日[『著作集』第2巻収録]

内蒙古独立の重大性 コミンテルン・ルートを切断『アサヒグラフ』29-20、11月17日[『著作集』第2巻収録]

敗北支那の進路『改造』19-13、11月18日[『現代支那批判』、『著作集』第2巻、『時評集』収録]

上海占領と国際関係 予想されるイギリスの態度『京都帝国大学新聞』271、11月20日[『著作集』第5巻収録]

蔣政権の今後 独裁形態の強化は何を意味する『帝国大学新聞』695、11月22日[『著作集』第5巻収録]

脆弱性の克服[『時の話題』『社会及国家』261、12月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

江南飢饉[『時の話題』『社会及国家』261、12月1日【実】[『著作集』第3巻収録]

日支局面の急転回『壮年団』3-12、12月1日[『著作集』第5巻収録]

#### **問題の人物 パールバック[口絵]『婦人之友』31-12、12月1日**

\*日支事変と独逸『グラフィック』12月5日[『著作集』第2巻収録]

国共両党合作の将来『日本評論』12-14、12月5日[『国共合作の将来』と改題、『現代支那批判』、『著作集』第2巻、『時評集』収録]

蒋介石よどこへ行く『週刊朝日』32-27、12月12日[『著作集』第2巻収録]

#### **支那経済の今後 “資本主義”から半封建的機構へ[『経済情勢』『大阪朝日新聞』12月13日**

### **1938(昭和13)年**

抗日支那の行方『大阪朝日新聞』1月1、3、4日[『著作集』第5巻収録]

#### **上海から香港へ『大阪朝日新聞』2月16、17日**

Chinese Peasants『Nippon』14、2月28日[訳文「支那の農民」『著作集』第5巻収録]

#### **戸惑へる香港『東京朝日新聞』3月19～22日**

六全大会開く[『世界の動向』『帝国大学新聞』714、3月31日[『著作集』第5巻収録]

南支を見る『壮年団』4-4、4月1日[『ゾルゲ事件研究』2収録]

香港は嘆く 嵐に揺ぐその横顔『アサヒグラフ』30-15、4月13日[『著作集』第5巻収録]

現代支那の財政読本[小林幾次郎『支那財政経済論』(叢文閣)の書評]『日本読書新聞』41、4月15日

最近の香港と広東[「事变をめぐる時局読本」]『週刊朝日』33-20、4月24日[朝日新聞社編『事变をめぐる時局読本』(朝日新聞社、1938年5月)、『著作集』第5巻収録]

長期抗戦の行方『改造』20-5、5月1日[『現代支那批判』、『著作集』第2巻、『時評集』収録]

支那問題座談会『商工経済』5-5、5月1日[4月2日座談会(於東京商工会議所):吉岡文六、林房雄、横田実、波多野幹一、太田宇之助、長谷川了、堀江邑一、中村常三、倉持博、岩井光次郎、木村増太郎]

**中南支とところどころ[「支那を現地に視る」]『東洋』41-5、5月1日**

列強極東政策の帰趨 転換の微妙なる瞬間『京都帝国大学新聞』278、5月5日[『著作集』第5巻収録]

**田中直吉氏著国際的観点から見た日支の抗争[「読書」]『東京朝日新聞』5月9日**

**抗日戦の命の綱 列強争覇! 四十年の歴史[「粵漢鐵路」]『大阪朝日新聞』5月29日**

\*国際資本と支那市場『グラフィック』5月上旬

**大陸の表情『三十日』6、6月1日**

『四季の歌』『大陸』1-1、6月1日[『著作集』第5巻収録]

長期戦下の諸問題『中央公論』53-6、6月1日[『現代支那批判』、『著作集』第2巻収録]

China Whither? New Order and New Problems『Nippon』15、6月1日[訳文「支那はいずこへ?—新しい秩序と新しい問題」]『著作集』第5巻収録]

\*大陸経営の新型『グラフィック』6月上旬

**堀江邑一氏訳支那経済地理概論[「読書」]『東京朝日新聞』6月27日**

New Far Eastern Diplomacy『Contemporary Japan』7-1、6月[訳文「新極東外交」]『著作集』第5巻収録]

対支経済国策の基調[「論叢」]『外交時報』807、7月15日[「日支事变と支那経済」と改題、]『現代支那批判』、『著作集』第2巻収録]

**香港・広東・澳門[「最近支那の話題」]『ラヂオ講演座』42、7月15日[『著作集』第5巻収録]**

**支那問題の文献書『東京朝日新聞』7月18、25日**

日支戦争第三期『大陸』1-3、8月1日[「支那事变第三期」と改題、]『現代支那批判』、『著作集』第2巻収録]

長期戦を戦ひ抜け!『大陸』1-3、8月1日[座談会:中野正剛、杉森孝次郎、古野伊之助、広瀬久忠、山之内二郎、平貞蔵]

\*日本と支那の洪水『グラフィック』8月上旬

**漢口陥れば事变は解決するか『明日』9-9、9月1日**

**北支中支の経済開発に就て『海外移住』11-9、9月1日**

事变は支那を変革する!『月刊ロシヤ』4-9、9月1日[座談会:横田実、富士辰馬、堀江邑一、藤枝丈夫]

長期抗戦態勢の成立『創造』8-9、9月1日[『ゾルゲ事件研究』4収録]

漢口をなぜ撃つか[「支那事变展望」]『大陸』1-4、9月1日[「漢口攻略の意義」と改題、]『現代支那批判』、『著作集』第2巻収録]

## 支那問題の文献『書香』109、9月10日

\*事変現段階の日本『グラフィック』9月下旬

新支那経済の動き 戦後経済の再建と東亜ブロック[「座談会 更生支那の経済と外交」における報告論文]『経済マガジン』2-10、10月1日

座談会 更生支那の経済と外交『経済マガジン』2-10、10月1日[座談会：横田実、鈴木東民]

漢口戦後に来るもの[「支那事変展望」]『大陸』1-5、10月1日[『現代支那批判』、『著作集』第2巻、『時評集』収録]

漢口攻略の重大転機『文芸春秋』16-17、10月1日[座談会：清瀬一郎、神田正雄、高木陸郎、松本忠雄]

支那理解への道『図書』33、10月5日[『著作集』第5巻収録]

The Yellow River and Chinese Civilization『Nippon』16、10月20日[訳文「黄河と中国文明」]『著作集』第5巻収録]

## これからの英国はいつまで援蒋政策を続けて行く積りか『旬刊時事特輯』3、11月1日

### 邦品市場としての武漢『東京の貿易』1-6、11月1日

海南島とフランス 嵐を胎む支那の極南地域[「沈黙するソ連と怯えるフランス」]『週刊朝日』34-24、11月20日[『ゾルゲ事件研究』2収録]

### 民族経済より観たる支那法幣の問題『一橋新聞』278、11月25日

新支那建設と国内問題『知性』1-8、12月1日[ゾルゲ事件研究]2収録]

支那経営大座談会『日本評論』13-12、11月1日[座談会：井上謙吉、蟬山政道、大田宇之助、大西齊、神田正雄、桑原中佐、横田実、高木陸郎、村田孜郎、山崎靖純、山崎大佐、松本忠雄、松本慎一、杉森孝次郎、鈴木少佐]

東亜の新秩序と第三国『ダイヤモンド』26-36、12月1日[11月25日座談会(於交詢社):重徳泗水、蟬山政道、芦田均、内田勝司、野崎龍七]

国民再組織の動向『新愛知』12月6~13日[座談会：山崎靖純、藤沢親雄、三輪寿壮、三木清、中野登美雄、篤田健二][『三木清研究資料集成』第3巻(クレス出版、2018年)収録]

興亜外交の出発『帝国大学新聞』746、12月19日[『著作集』第5巻収録]

支那事変は、どう解決するかー新支那地域と西南地区ー[インタビュー形式「講座」]『時局月報』11-13、12月20日

## 1939(昭和14)年

座談会 時局收拾と国民再編成『改造』21-1、1月1日[12月29日座談会(於東京会館):有馬頼寧、馬場恒吾、高橋亀吉、津久井龍雄、長谷川如是閑、宮沢俊義、山本実彦]

「事変第三年を迎ふるに当り壮年団運動に何を求むるか」『壮年団』5-1、1月1日

「東亜協同体」の理念とその成立の客観的基礎『中央公論』54-1、1月1日[『中央公論』75-12(1960年11月)再録。『著作集』第2巻、伊東昭雄編『アジアと近代日本 反侵略の思想と運動 思想の海へー解放と変革ー』(社会評論社、1990年)、『時評集』収録。『時評集』から張競・村田雄二郎編『日中の120年 文芸・評論作品選 3 侮中と抗日』(岩波書店、2016年)収録]

### 新支那の新形態『北海タイムス』1月1日

**現代支那要人論『名古屋新聞』1月2、4～8日**

日支文化の交流とその工作[「文芸」]『読売新聞[夕刊]』1月5～8、11～15、18～21、25日[座談会：石井柏亭、常盤大定、中村武羅夫、松島海軍中佐、松村陸軍中佐、松本忠雄、宮川米次、横山俊平ほか]

**現代支那要人論『神戸新聞』1月10～14日**

現代支那要人論『台湾日日新報』1月10～12日

「蒙古大観」評『善隣協会調査月報』81、2月1日[『中外商業新報』から転載。『ゾルゲ事件研究』2収録]

汪兆銘を語る[「時の問題・人」]『婦人之友』33-2、2月1日[『ゾルゲ事件研究』6収録]

「東亜に迫る世界の圧力」座談会『文芸春秋』17-3、2月1日[12月26日座談会(於星ヶ丘茶寮)：芦田均、伊藤正徳、清沢冽、神川彦松、志岐守治、松島慶三、丸山政男]

**二つの政治面[「窓外」]『新愛知[夕刊]』2月4日**

東亜政局に於ける一時的停滞と新なる発展の予想『改造』21-3、3月1日[『著作集』第2巻、『時評集』収録]

**スペインと支那[「窓外」]『新愛知[夕刊]』3月16日**

春寒料峭[「興亜随筆」]『科学主義工業』2-11、4月1日[『著作集』第5巻収録]

大陸の春を想ふ『革新』2-4、4月1日[『ゾルゲ事件研究』2収録]

『日支時局の推移と支那経済』要綱[国民思想研究所主催講演要綱]『国民思想』5-4、4月1日

**大陸政策二筋道[「日日一題」]『福岡日日新聞[夕刊]』4月2日**

東亜新秩序論の現在及将来—東亜協同体論を中心に—『東亜問題』1-1、4月6日[『著作集』第2巻、『時評集』収録]

**支那を知る[「槍騎兵」]『東京朝日新聞』4月19日**

Activities of hilw Pei-fu and Wang Ching-wei『Contemporary Japan』8-2、4月[訳文「呉佩孚と汪精衛の活動」]『著作集』第5巻収録]

汪兆銘問題の新発展『中央公論』54-5、5月1日[『著作集』第2巻収録]

第二次世界大戦と極東『中央公論』54-5、5月1日[7月5日座談会(於驪山荘)：細川嘉六、堀江邑一、城戸又一、丸山政男、平貞蔵]

**「この際学生に読ませたい書物」『革新』2-5、5月1日**

**「支那知識階級に推薦する書籍」『揚子江』2-5、5月1日**

**二つの型[「窓外」]『新愛知[夕刊]』5月6日**

**分裂の様相[「日日一題」]『福岡日日新聞[夕刊]』5月7日**

自主的体制を確立せよ 支那事変と緊迫の欧州情勢『帝国大学新聞』765、5月8日[『著作集』第5巻収録]

**スペインと支那[「日日一題」]『福岡日日新聞[夕刊]』5月28日**

\*陳翰笙先生『グラフィック』5月

**恃むは自力のみ[「日日一題」]『福岡日日新聞[夕刊]』6月6日**

東亜協同体論 現実把握の不足 理想論的な明るさが魅力[「時評」]『帝国大学新聞』772、6月26日[『著作

集』第5巻収録]

**我々の課題 事変はどんな変化を東亜に齎しつつあるか『読売新聞[夕刊]』7月4日**

**待むは自力[窓外]『新愛知[夕刊]』7月6日**

東亜体制と日支関係[5月10日、第33回全国図書館大会講演]『図書館雑誌』33-8、8月1日

目標をぼやかす勿れ[「東京会議への要望」]『中央公論』54-8、8月1日

\*阿部内閣の成立 第二次欧州大戦の序幕『時事月報資料』2、9月15日【無署名】

欧州大戦と汪兆銘運動—列国の対支援助はどうなるか—『経済マガジン』3-10、10月1日

動乱欧州の前途(座談会)『中央公論』54-10、10月1日[9月7日座談会(於偕楽園):馬場恒吾、堀真琴、城戸又一、丸山政男、益田豊彦、芦田均、斉藤忠、鈴木東民]

汪兆銘運動の新展開と事変処理座談会『文芸春秋』17-19、10月1日[9月5日座談会:三枝茂智、横田実]

**欧州戦争と日本の立場[一問一答、文責在記者]『労働日本』10-10、10月1日**

**政治外交研究懇談会『壮年団』5-10、10月10日**[9月16日座談会(於軍人会館):後藤隆之助、高橋雄豹、佐々弘雄]

**国際信義[窓外]『新愛知[夕刊]』10月20日**

**国際信義[時観]『福岡日日新聞[夕刊]』10月22日**

阿部内閣の誕生と汪兆銘の中央政権設立運動[談]『家の光』15-11、11月1日

汪精衛政権の基礎『公論』2-9、11月1日[『著作集』第2巻、『時評集』収録]

**公正なる日支経済の合作と民族資本獲得の急務『国民新聞』11月6日**[『新東亜の展望』(国民新聞社、1940年3月25日)、『ゾルゲ事件研究』6収録]

**敵性と中立性[窓外]『新愛知[夕刊]』11月12日**

**ソ連の腹を探る座談会『週刊朝日』36-24、11月19日**[10月30日座談会(於東京築地花月):昇隆一、林群喜、丸山政男、益田直彦、嘉治隆一、桜木俊晃]

新建設への照明「東亜学」—第一輯—を讀みて『帝国大学新聞』787、11月20日

\*汪派の顔ぶれ『東亜公論社通信』11月

**座談会 新情勢下の日本を語る『青年』24-12、12月1日**[座談会:丸山幹治、白崎亨一、熊谷会次郎、鈴木東民、山崎靖純]

事変処理座談会—東亜の現在と将来—『東亜連盟』1-2、12月1日[10月21日座談会(於日比谷山水楼):伊藤六十次郎、細川嘉六、加田哲二、平貞蔵、東浦庄治、稲村隆一、神田孝一、木村武雄]

現段階的意義—当面する支那農村の難関[「三民主義再検討」]『帝国大学新聞』789、12月4日[『著作集』第5巻収録]

## 1940(昭和15)年

**支那革命の指導理論[「三民主義の再検討」]『外地評論』16、1月1日**

東亜新情勢の展望『大陸』3-1、1月1日[座談会:石浜知行、蠟山政道][『著作集』第5巻収録]

森田正夫「汪兆銘伝」を讀む『東亜解放』2-1、1月1日[『著作集』第5巻収録]

【二千五百年代を顧みて二千六百年代を想ふ】『婦人之友』34-1、1月1日

汪兆銘氏におくる【「世界の立役者への公開状」】『国民新聞[夕刊]』1月5日【「汪精衛氏におくる」と改題『新東亜の展望』（国民新聞社、1940年3月25日）、『ゾルゲ事件研究』6収録】

【「良書紹介」】『図書』48、1月5日【『著作集』第5巻収録】

支那社会の社会科学的究明【清水盛光『支那社会の研究』の書評】『一橋新聞』301、1月25日

汪兆銘全集【「大陸書誌評論」】『大陸』3-2、2月1日【『著作集』第5巻収録】

【「浅間丸事件をどう思ふ？」】『アサヒグラフ』34-5、2月7日

議会ニ反映サレタ非常時局性『東京時事資料月報』8、3月15日【無署名】【『開戦前夜の近衛内閣』宮西義雄編著『満鉄調査部と尾崎秀実』（亜紀書房、1983年）収録】

国民の政治力と新政治機構の研究【公論】3-4、4月1日【座談会：穂積七郎、勝間田清一、河野密、矢部貞治、平貞蔵】

戒心スヘキ内政ノ弛緩状態『東京時事資料月報』9、4月15日【無署名】【『著作集』第3巻、『開戦前夜の近衛内閣』収録】

悲壮感無用【「窓外」】『新愛知[夕刊]』4月18日

悲壮感の要なし【「時鏡」】『福岡日日新聞[夕刊]』4月19日

重慶政府の命脈打診(現地座談會)『協和』264、5月1日【座談会：伊藤武雄、中西功、山崎進、大島詳光、石川正義、手島正毅、片山康貳、具島兼三郎、白井行幸、浅井萬矩雄、牧野龍夫】

\*欧州政局ノ急転回ト政局『東京時事資料月報』10、5月22日【無署名】

世界史的に見た東亜問題【大陸新報】6月4日【座談会：三木清、細川嘉六、平貞蔵、友岡久雄】

国民再組織問題の現実性【「日本政治の再検討」】『帝国大学新聞』815、6月10日【『著作集』第5巻収録】

新党問題ト政局『東京時事資料月報』11、6月15日【無署名】【『著作集』第3巻、『開戦前夜の近衛内閣』収録】

蒋政権と奥地開発『支那』31-7、7月1日

中国青年を困む座談会『青年』25-7、7月1日【座談会：谷川徹三、揚王林、王遵揖、王遵伯、姚文源、夏瑗琳、徐竹芳、盧紅英、張景平ほか】

【「現下日本ジャーナリズム批判」】『大陸』3-7、7月1日【『著作集』第5巻収録】

東洋の社会構成と日支の将来【中央公論】55-7、7月1日【5月31日座談会(於嵯峨野)：橘樸、細川嘉六、平野義太郎】

【「近衛公の新党に対する賛否の希望」】『読売新聞』7月2日

第二次近衛内閣ノ成立ト新政治組織『東京時事資料月報』12、7月20日【『開戦前夜の近衛内閣』収録】

新内閣と事変処理【「第二次近衛内閣の成立と政治・外交・経済の前途」】『東洋経済新報』1931、7月27日【『著作集』第5巻収録】

普陀山のこと【科学主義工業】4-8、8月1日【『著作集』第5巻収録】

新党運動の国民的基礎【大陸】3-8、8月1日【6月20日座談会(於嵯峨野)：三木清、鈴木東民、伊藤好道】【『著作集』第5巻、【『三木清研究資料集』第4巻(クレス出版、2018年)収録】

大きな見込み違い【「火焰道場」】『東亜解放』2-8、8月1日【『著作集』第5巻収録】



日本ノ当面スル外交環境ト新体制『東京時事資料月報』13、8月20日【無署名】[『開戦前夜の近衛内閣』収録]

**支那の現状と国際政局** [6月22日講演(於神戸経済倶楽部午餐会)]『経済倶楽部講演』昭和15年第20輯、8月22日

**新体制座談会 覆面「狙撃兵」から「推進隊」へ『都新聞』8月22～28、30日**[8月21日座談会(於帝国ホテル): 岩淵辰雄、原祐三、新居格、本荘可宗、上司小剣、平貞蔵、津久井龍雄、矢部周、河野密、小穴毅、清瀬一郎]

外交政策と東洋の民族主義[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』8月27日[『著作集』第5巻収録]

**犠牲の均衡化[「窓外」]『新愛知[夕刊]』9月8日**

**犠牲の均衡化[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』9月8日**

東亜部の地位[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』9月10日[『著作集』第5巻収録]

近衛内閣ト新体制『東京時事資料月報』14、9月15日【無署名】[『開戦前夜の近衛内閣』収録]

新体制と東亜問題『東亜連盟』2-10、10月1日[『著作集』第5巻、『時評集』収録]

[「近頃読んだ書」]『帝国大学新聞』826、10月9日

**日独伊同盟と新体制 尾崎秀実氏を困んで・座談會[座談會要領速記]『協和』275、10月15日**

卒伍の重要性[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』10月22日[『著作集』第5巻収録]

三国同盟成立後ノ新状勢『東京時事資料月報』15、10月25日[『開戦前夜の近衛内閣』収録]

The New National Structure『Contemporary Japan』9-10、10月[訳文「新体制について」]『著作集』第5巻収録]

[「良書紹介」]『図書』58、11月5日[『著作集』第5巻収録]

外交路線と経済[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』11月5日[『著作集』第5巻収録]

地方と新体制[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』11月19日[『著作集』第5巻収録]

革新ニ対スル反動機運ノ台頭一十一月政治情勢報告『東京時事資料月報』16、11月20日【無署名】[『開戦前夜の近衛内閣』収録]

満州国・協和会・全連を語る『公論』3-12、12月1日[10月23日座談会(於東京): 平貞蔵、富沢有為男、古市春彦]

南方問題と支那問題『新亞細亞』2-12、12月1日[『著作集』第3巻、『時評集』収録]

満州国と協和会『中央公論』55-12、12月1日[『著作集』第3巻収録]

国民政府の新課題『東亜解放』2-12、12月1日[『著作集』第3巻収録]

**和平に現実的拠点 重慶、深く再考せよ[「日支国交の新段階」]『福岡日日新聞』12月1日**

南京政権の性格[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』12月3日[『著作集』第5巻収録]

**前途は青信号 世界の大きな動きは来年来る** [談]『大陸新報』12月9日

## 1941(昭和16)年

支那の戦時経済—石浜知行氏著「支那戦時経済論」を読む『大陸』4-1、1月1日[『著作集』第5巻収録]

事変第五年への展望『大陸新報』1月1、?、5、7、8、10日[12月24日座談会(於日本俱樂部):堀江邑一、具島兼三郎、丘正雄、戸叶武、小森慶三]

**支那人と賭博[「隨筆」]『モダン日本』12-1、1月1日**

支那事變の國際性『帝国大学新聞』840、1月20日[『著作集』第5巻収録]

対米問題の重要性を覆ふ勿れ[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』1月21日[『著作集』第5巻収録]

現状維持勢力下ノ一時的安定 最近ノ政治情勢一般ニ就イテ『東京時事資料月報』18、1月24日【無署名】  
[『開戦前夜の近衛内閣』収録]

**細川嘉六氏の近著アジア民族政策論 [「書評」]『一橋新聞』321、1月25日**

\*支那事變の國際的複雜性『外地評論』29、2月1日

**東亞共榮圈の新課題[「時局評論」]『秋田魁新報』2月3日**

**東亞共榮圈の新課題[「時局評論」]『京都日出新聞』2月3日**

**東亞共榮圈の新課題[「月曜評論」]『北国毎日新聞』2月3日**

国共關係激化[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』2月4日[『著作集』第5巻収録]

東亞共榮圈の新課題『大陸新報』2月5日[『著作集』第5巻収録]

議会与現実政治『東洋經濟新報』1958、2月15日[『著作集』第5巻収録]

思想と政策[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』2月19日[『著作集』第5巻収録]

不要ノ翳ヲ持ツ政治情勢『東京時事資料月報』19、2月25日【無署名】[『開戦前夜の近衛内閣』収録]

東亞共榮圈の基底に横たはる重要問題『改造』23-5、3月1日[『著作集』第3巻、『時評集』収録]

時局対談『大陸』4-3、3月1日[対談:風見章][『著作集』第5巻収録]

北支人氣質『東亞解放』3-3、3月1日[『著作集』第5巻収録]

**東亞問題の重要性と日本の國際的地位[「月曜評論」]『北国毎日新聞』3月3日**

**[「壮年団全国連合に望む」]『壮年団』7-3、3月5日**

世界的非常時と指導者の常識[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』3月5日[『著作集』第5巻収録]

欠乏と社会道德『東洋經濟新報』1962、3月15日[『著作集』第5巻収録]

米と菓子切符制[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』3月19日[『著作集』第5巻収録]

満州国協和会に望むこと[「満州への公開状」]『満州日日新聞』3月19、21日[『ゾルゲ事件研究』6収録]

**革新方式の國際型と国内型[「時局評論」]『秋田魁新報』3月24日**

枢軸外交の勝利座談会『読売新聞』3月25~29、31日、4月1~3、6、8、9日[3月22日座談会(於読売新聞社会議室):馬淵逸雄、宮原武雄、齊藤忠、白鳥敏夫、田代重徳、石井康、船田中、伍堂卓雄]

**内閣政治力の強化 革新方式の國際型と国内型[「週間國際時評」]『山形新聞』3月27日**

**國民政府の実績と使命『福岡日日新聞』3月30日**

**革新方式の國際型と国内型[「月曜評論」]『北国毎日新聞』3月31日**

完全ナル静止裡ニ在ル国内状況 外部情勢ノ展開ヲ待ツノミ(三月政情報告)『東京時事資料月報』20、3月  
【無署名】[『開戦前夜の近衛内閣』収録]

具島兼三郎著世界政治と支那事変[「書評」]『大陸』4-4、4月1日[『著作集』第5巻収録]

東亜の現実と理想—重慶政府に与ふる書—『東亜解放』3-4、4月1日[『著作集』第3巻収録]

翼賛会改組に望む[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』4月3日[『著作集』第5巻収録]

東亜共栄圏と東亜農業圏『国際経済研究』2-4、4月11日

バルカン状勢の新展開と支那[「時評」]『東洋経済新報』1966、4月12日[『著作集』第5巻収録]

**事変処理 英独決戦 米の参戦『実業之日本』44-8、4月15日[鼎談会:楠山義太郎、松本忠雄]**

支那抗戦力調査委員会「昭和十四年度総括資料」に就いて『満鉄資料彙報』6-4、4月15日[宮西義雄編著『満鉄調査部と尾崎秀実』(亜紀書房、1983年)、上条晴史編『危機の時代と転向の意識 思想の海へ—解放と変革—』社会評論社、1990年]収録]

ソ連の現実外交と重慶の狼狽[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』4月18日[『著作集』第5巻収録]

支那近代百年表草稿について『東亜研究所報』9、4月20日[『著作集』第5巻収録]

内閣改造ト外交ノ新方向—四月政治状勢—『東京時事資料月報』21、4月24日【無署名】[『開戦前夜の近衛内閣』収録]

**日ソ条約の成立 和平工作への圧力[「内外時評」]『山形新聞』4月26日**

**人間の発展と歴史[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』4月27日**

**日ソ条約と平和工作[「月曜評論」]『北国毎日新聞』4月28日**

**発展と歴史[「窓外」]『新愛知[夕刊]』5月1日**

米支関係の発展と日本[「寄稿」]『新経済』1-1、5月1日[『ゾルゲ事件研究』6収録]

政治の若さ[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』5月3日[『著作集』第5巻収録]

**野間海造著「日本の人口と経済」[「良書紹介」p.29]『図書』66、5月5日[『著作集』第5巻収録]**

東亜外交政策に加ふべき考慮[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』5月17日[『著作集』第5巻収録]

**雄大な歴史の法則[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』5月20日**

**強大な歴史の法則則[「時観」]『北海タイムス[夕刊]』5月20日**

**雄大な歴史の法則『河北新報[夕刊]』5月30日**

**歴史の法則[「窓外」]『新愛知[夕刊]』5月31日**

不変なるものと変化するもの[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』5月31日[『著作集』第5巻収録]

去年の今頃[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』6月14日[『著作集』第5巻収録]

独ソ開戦ト岐路ニ立ツ国内政治『東京時事資料月報』23、6月20日【無署名】[『開戦前夜の近衛内閣』収録]

**独ソ開戦と東亜[「時局評論」]『秋田魁新報』6月28日**

**東亜文化の開拓[「窓外」]『新愛知[夕刊]』6月28日**

最後の勝負を決するは民族社会の弾力性[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』6月28日[『著作集』第5巻収録]

**文化的封鎖を破る道[「時観」]『北海タイムス[夕刊]』6月29日**

**独ソ開戦と東亜[「月曜評論」]『北国毎日新聞』6月30日**

王精衛閣下の来訪に当りて[談]『実業之世界』38-7、7月1日

現実政治の推移[「事変四年史政治篇」]『大陸』4-7、7月1日[『著作集』第3巻、『時評集』収録]

転機を孕む国際情勢と東亜『中央公論』56-7、7月1日[『著作集』第3巻、『時評集』収録]

世界戦争に於ける重慶の役割『東亜解放』3-7、7月1日[『著作集』第3巻収録]

世界の運命と東亜『大陸新報』7月3日[『著作集』第5巻収録]

#### **文化的封鎖を破る道[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』7月6日**

支那事変と東亜結合の理念『都新聞』7月7~9日[『著作集』第5巻収録]

[「一、独ソ戦は米国の参戦を早めるか 二、世界にわたる反共十字軍結成の可能性」]『一橋新聞』331、7月10日

#### **支那事変の教訓 国民政府に対する期待『北海タイムス』7月10日**

支那社会と近代戦[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』7月12日[『著作集』第5巻収録]

事変処理を焦るな[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』7月26日[『著作集』第5巻収録]

#### **東亜外交情勢の新段階[「月曜評論」]『北国毎日新聞』7月28日**

#### **東亜外交情勢の新段階[「時局評論」]『秋田魁新報』7月30日**

カールソン著中華の双星—国民党と共産党—[「東亜関係書評」]『東亜政治と東亜経済』1-1、7月30日[『著作集』第5巻収録]

緊迫セル国際情勢ニ旋回セル近衛内閣—第三次近衛内閣成立ヲ中心ニ—(七月政治報告)『東京時事資料月報』24、7月【無署名】[『開戦前夜の近衛内閣』収録]

独ソ開戦と重慶の立場『改造』23-15、8月1日[『著作集』第3巻、『時評集』収録]

支那問題の処理方式[談]『新興亜』3-8、8月1日[『ゾルゲ事件研究』6収録]

東亜外交の新段階『大陸新報』8月1、2日[『著作集』第5巻収録]

#### **東亜に関する新刊書一瞥[「出版界」]『都新聞[夕刊]』8月4日**

都市と農村[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』8月9日[『著作集』第5巻収録]

地方的翼賛体制[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』8月23日[『著作集』第5巻収録]

全貌ヲ露呈シタ「危機」ノ正体—八月政治状勢—『東京時事資料月報』25、8月【無署名】[『開戦前夜の近衛内閣』収録]

#### **国際情勢と危機の自覚[「時局評論」]『秋田魁新報』9月1日**

**東亜民族政策論『現代』22-9、9月1日**[座談会：今井登志喜、岡崎三郎、中山優、平館利雄]

#### **国際情勢と危機自覚[「月曜評論」]『北国毎日新聞』9月1日**

地方的活力[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』9月6日[『著作集』第5巻収録]

国際情勢と危機の自覚『大陸新報』9月7日[『著作集』第5巻収録]

満州と農民[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』9月20日[『著作集』第5巻収録]

#### **国民の勤と社会戦の段階[「月曜評論」]『北国毎日新聞』9月29日**

\*対米交渉ト南方問題『東京時事資料月報』26、9月30日【無署名】

危機迫る東亜[「東亜展望 政治」]『大陸』4-10、10月1日[『著作集』第3巻、『時評集』収録]

北京滅亡史の教訓[「推進隊」]『都新聞[夕刊]』10月5日[『著作集』第5巻収録]

大陸政策十年の検討[「創刊拾周年記念特輯」]『満州評論』21-17、10月25日[10月14日座談会：鈴木小兵衛、橋樸、平貞蔵、土井章、細川嘉六][『著作集』第5巻収録]

大戦を最後まで戦ひ抜くために『改造』23-21、11月1日[『著作集』第3巻、『時評集』収録]

独ソ戦と東亜『月刊ロシヤ』7-11、11月1日[座談会：橋樸、竹尾式、富士辰馬、丸山政男]

“南方調査の方法と企画を語る”座談会『新亜細亜』3-11、11月1日[座談会：板垣与一、小西千比古、福田省三、平野義太郎ほか]

## 1944(昭和19)年

尾崎秀実上申書『特高月報』[19-10]、11月20日[『著作集』第4巻、『現代史資料2 ゾルゲ事件』(みすず書房、1962年)、『ゾルゲ事件上申書』(岩波書店、2003年)収録]

#### 4. 評論集初出

『嵐に立つ支那 転換期支那の外交・政治・経済』 亜里書店、1937年9月10日[『著作集』第1巻収録]

収録評論	初出掲載誌
戦争の危機と東亜	『中央公論』52-4、1937年4月1日
対支政策の推進力とその限界	『中央公論』50-9、1935年9月1日
支那における列強の角逐	『国際評論』5-1、1936年1月1日
支那における国際関係の新局面	『新評論』1-1、1936年12月1日
イギリス対支政策の新段階	『国際評論』6-3、1937年3月1日
列強角逐中におけるアメリカの対支政策	『東洋』40-6、1937年6月1日
支那とソ連邦	『月刊ロシヤ』3-3、1937年3月1日
新疆におけるソ連の経済的地盤	『国際知識』17-3、3月1日
最近の段階における日支関係	Recent Developments in Sino-Japanese Relation [第六回太平洋会議討議資料]
日支外交の一元化	未詳[1936年2月24日]
北支問題の重要性	『自由通商』9-1、1936年1月1日
防共問題の多面性	『日本評論』11-12、1936年12月1日
日支経済提携批判	『改造』19-5、1937年5月1日
支那と銀問題	『国際評論』4-2、1935年2月1日
内債の嵩む支那と国際援助の重要性	『ダイヤモンド』23-12、1935年4月21日
支那経済の立直しと借款問題	『国際評論』4-5、1935年5月1日
南京政府の内債借款	未詳[1936年2月4日]
支那の国際貿易に関する一考察	『自由通商』9-4、1936年4月1日
支那の産業開発と国際資本	『自由通商』10-5、1937年5月1日
張学良クーデターの意義	『中央公論』52-1、1937年1月1日
西安事件以後の新情勢	『社会及国家』251、1937年2月1日
転換期支那の基本問題	『中央公論』52-7、1937年7月1日

『国際関係から見た支那』 第二国民会出版部、1937年11月22日[『著作集』第1巻収録]

収録評論	初出掲載紙誌	原題
列国の対支政策	『産業と教育』3-8、1936年8月1日	
支那に於ける列強外交戦の再開	未詳[1937年1月]	
支那の幣制改革と日英の対立	未詳[1935年11月]	
英の対支政策	『帝国大学新聞』672、1937年5月3日	
東亜に於ける戦争の危機	『自由』1-4、1937年4月1日	
北支に錯綜する列強の利権	『世界知識』10-9、1937年9月1日	
ソ支不可侵条約締結	未詳[1937年9月]	
日ソ国防力概説	未詳[1937年7月]	
支那は果して赤化するか	『実業之日本』40-20、1937年10月15日	
彼等上海＝南京枢軸を死守せん	『週刊朝日』32-12、1937年9月12日	
太平洋会議の支那問題	『中央公論』51-11、1936年11月1日	
南京政府と中国共産党	『帝国教育』708、1937年10月1日	南京政府の解剖と中国共産党
支那を支配する国民党	未詳[1937年10月]	
北支進出を企てる支那共産軍	『アサヒグラフ』26-18、1936年4月29日	北支進出を企つ支那共産軍の全貌
支那論の貧困と事変の認識	『セルパン』81、1937年10月1日	
対支政策の転換	『壮年団』3-5、1938年5月1日	
日英会談と支那の動き	『壮年団』3-6、1938年6月1日	
近衛内閣と対支外交	『壮年団』3-7、1938年7月1日	
北支問題の重大化	『壮年団』3-8、1938年8月1日	

日支戦争の展開	『壮年団』3-9、1938年9月1日	
日支事変と列強	『壮年団』3-10、1938年10月1日	

『現代支那批判』中央公論社、1938年11月20日[『著作集』第2巻収録]

収録評論	初出掲載紙誌	原題
南京政府論	『中央公論』52-9、1937年9月1日	
支那における列強	『移り行く支那』朝日新聞社、1937年2月29日	
日本の大陸政策と満州・北支問題	『植民地の再分割』朝日新聞社、1937年8月30日	
支那に於ける英国の勢力	『中央公論』52-10、1937年10月1日	
中国国民党・共産党関係史	『日本評論』12-9、1937年8月10日	
北支問題の新段階	『改造』19-8、1937年8月1日	
時局と対支認識	『改造』19-11、1937年10月10日	
支那事変と列国	『東洋』40-10、1937年10月1日	
敗北支那の進路	『改造』19-13、1937年11月18日[	
国共両党合作の将来	『日本評論』12-14、1937年12月5日	
長期抗戦の行方	『改造』20-5、1938年5月1日	
長期戦下の諸問題	『中央公論』53-6、1938年6月1日	
支那事変第三期	『大陸』1-3、1938年8月1日	日支戦争第三期
漢口攻略の意義	『大陸』1-4、1938年9月1日	漢口をなぜ撃つか
漢口戦後に来るもの	『大陸』1-5、1938年10月1日	
支那の経済建設批判	『太平洋問題—第六回太平洋会議報告—』 日本国際協会、1937年6月14日	
支那に於ける貿易と関税政策	『自由通商』10-10、1937年10月10日	
日支事変と国際資本	『支那経済年報 昭和十三年版』改造社、 1937年12月20日	
日支事変と支那経済	『外交時報』807、1938年7月15日	対支経済国策の基調